

2016/1/28

朝日放送株式会社

プレスリリース

『テレビ視聴に基づいたウェブ広告配信に関する実証実験を実施』

朝日放送株式会社（本社：大阪市福島区、代表取締役社長：脇阪 聡史、以下「朝日放送」）は、テレビCMで作る広告効果を、ウェブ広告を掛け合わせて拡大することを目指し、朝日放送のテレビ番組やCMの視聴ログ及び視聴を補足する様々なデータを活用し、2016年2月1日から1年間、商用化に向けた実証実験を実施します。

本実証実験では、許諾を頂いたLAN接続のテレビ受信機に蓄積する朝日放送のテレビ番組やCMの実視聴ログデータ(※1)に加え、番組ウェブサイト、スマートフォンアプリなど朝日放送が保有する様々なサービスへのアクセスログデータを活用し、従来では実現できなかったテレビ視聴をきっかけとしたウェブ広告配信の有効性検証や、テレビ視聴が直接的又は間接的にウェブ広告へ及ぼす影響力の確認等を実施します。なお、地上波のデータ放送通信機能を利用した実視聴ログ取得からインターネット上でのウェブ広告の配信や、相乗効果の測定という一連の仕組み(※2)は国内初めての取り組みとなります。

朝日放送は、今回の実証実験を通じた視聴者の反応や利用状況、ウェブ広告配信によるインターネット上でのテレビ番組及びCMの効果補完の有効性を検証し、本格提供に向けてサービス内容の改善を図ってまいります。また今後は、広告主向けのマーケティング施策の開発にとどまらず、ウェブ広告との相乗効果を最大化するためのより良質なコンテンツの制作及び、視聴行動に基づくより便利な視聴者向けサービスを開発・提供することで、地上波放送に新たな価値を提案してまいります。

※1 実視聴ログの収集について

テレビ受信機がインターネットに接続されている場合かつ、実証実験調査への協力を有効化している場合に限り、通信機能を利用して視聴ログの収集が開始されます。収集するログには特定の個人を識別できる情報は含まれておらず、識別できる仕組みにもなっていません。また、受信機をインターネットに接続していない場合や、接続していても調査への協力を有効化しない限り、朝日放送が情報を収集することはありません。

※2 実証実験概念図

